

## 事業所における自己評価結果

公表

事業所名		こどもプラス豊見城教室3号館					公表日	令和 8年 4月 30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	8	0	半年に1回見直しを行い、新しい課題が出た場合にすぐに対応することができている。 児童の特性に合わせて、用意することができている。	半年に1回ではなく、保護者・学校側と都度情報共有を行っています。		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	個人の受け持つ件数のバランスや負担がバラつく時がある。管理者がつど面談を通して再振り分けや調整するなど配慮している。	1人1人に対しての負担が大きいのと思います。 希望者に対して適正職員が少ないです。 職員へ業務を割り振る際に、負担が生じないかと感じています。 バランスを考えることが今後の課題だと感じています。		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	定期的に事業所内でミーティングを持ち振り返りを行っている。	業務改善に向けたPDCAサイクルを実施し、職員会議等を通して意見交換を行っています。今後はさらに職員一人ひとりが主体的に参画できる仕組みを強化し、改善活動の質向上に務めていきます。		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	都度、訪問報告の機会を作り保護者の意向等を確認している。	引き続き保護者の意向等の把握する機会を作り、業務改善に繋げていきます。		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	定期的にミーティングの時間をとり業務改善に繋げている。	定期的に個別で面談等、従業員が意見を伝えやすい環境作りを引き続き行います。		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2	定期的に保護者だけでなく学校の先生からの評価も受け、保育所等訪問へ入る上での参考にすることができている。	評価内容を職員ミーティングで共有し、全職員が課題を共通理解できる体制を整えています。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	法人内での研修に毎月参加している。	研修を受講する機会を持てるように声かけを行い、支援の質を高めていけるようにします。		
適	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	8	0	学校側や保護者からアセスメントを取り書類として作成。本人の特性を考慮して保育所等訪問支援計画書を作成している。	引き続き、子どもの課題を分析し学校側と意見交換をしながら支援を行います。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	保育所等訪問支援計画を作成する際に、担当職員と情報共有を行い計画書を作成している。	引き続き、子どもの最善の利益に考慮し、担当職員とよく話し合い共通理解の下で保育所訪問支援計画を作成していきます。		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	8	0	事前に連携を取り、支援学級および交流学級の担任と情報共有・連携を図りながら、支援計画を作成している。	継続して訪問先施設の担当者および担任と協議の機会を設け、関係機関の見解を取り入れた支援計画書を策定します。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	定期的に会議の場を開き、保育所等訪問支援計画を職員へ共有している。	職員間で支援計画の共有をさらに徹底し、計画に基づいた支援の実施を強化する必要があります。		
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	日々の行動観察など含むインフォーマルなアセスメントを使用し確認している。	行動観察を行い分析し支援していることが現状であることから標準化されたツールを用いたアセスメントも適用できるように活用していきます。		

切 な 支 援 の 提 供	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	具体的な支援内容を設定して行う事が出来ている。	今後も具体的な支援内容を明確に設定し、より丁寧な支援を実施していきます。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	定期的に事業所内でミーティングを持ち、計画書の情報共有を行っている。	定期的なミーティングを継続し、支援計画の共通理解を深め、計画に基づいた統一した支援の実施に努めていきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	担当職員で事前に打ち合わせし、訪問している。	支援前には共有しているが、その日行われる支援の内容、役割分担については確認していない為、チームで連携して支援が行えるように改善する必要があると思います。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	朝礼や終礼で、職員同士が情報共有や意見交換する場が設けられている。	支援終了後の振り返りを確実に実施し、職員間での情報共有の充実を図っていきます。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	8	0	訪問先の先生との情報交換を行いながら適切な支援を心がけている。	引き続き、訪問先の先生と情報交換を行いながらより適切な支援を心がけていきます。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	8	0	毎回すぐに記録、報告書を作成している。	ABC理論に基づき、行動の前後関係を分析したうえで、適切な支援方法を検討しています。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	半年に1回モニタリングを実施し、保護者の意向を確認したうえで支援計画の見直しを行っている。	引き続き保護者や訪問先の意向の確認を行い、計画書の見直しを行います。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	児童発達支援管理責任者及び、子どもの状況をよく理解した職員が担当者会議・関係機関との会議に参加している。	引き続き、子どもの状況をよく理解した職員が担当者会議・関係機関との会議に参加していきます。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	体制そのものは連携できているものもあるが、万全な体制には至っていない。	体制そのものは連携できているものもあるが、万全な体制には至っていません。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	小学校低学年を対象に支援を行っているが、学年や学校が変わる際には、支援内容の情報共有と相互理解を図るようにしている。	移行の際には、学校と情報共有と相互理解が図れるように環境整備を行っています。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	0	月1回動画にて研修がある。運動保育士（運動療育支援員）や強度行動障害などの研修に参加している。	質の向上を図るために、専門家や専門機関等から積極的に助言を受け、外部研修に参加できるように声かけを行っています。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	6	当法人の代表代理が参加し、協議会での内容共有を受けている。	得られた情報を現場支援に反映させ、地域連携の視点をより活かしていきます。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	都度、保護者とこどもの状況共有を行い、発達の状況や課題について共通理解を持ち支援をしている。	引き続き、保護者とこどもの状況を共有し、発達の状況や課題について共有理解を図っていきます。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	保護者が相談しやすい環境・時間を作るようにしている。	引き続き、保護者が相談できる場を作り、家族等が参加のできる研修等の情報提供を行います。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に運営規程や利用者負担等について説明を行い、内容の理解を得られるよう努めている。	運営規定、利用者負担等について、さらに基礎知識を身につけると共に聞かれたことに対して丁寧に説明を行います。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	8	0	保育所等訪問支援を開始する前に事前に説明を行っているが、訪問支援開始後に担当者に担任より質問されることがあった。	事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明できるように知識を身につけ支援の質を高めて行きます。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	保育所等訪問支援計画を作成する前にアセスメントを取る等、子どもや家族の意向を事前に確認する機会を設けている。	アセスメントだけでなく、会議等を持ち子どもや保護者の意思の尊重、意向をを確認する場を作り改善に努めていきます。

保護者等への説明等	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	8	0	訪問支援の利用を開始する前に保育所等訪問支援計画の支援内容の説明を行い、保育所等訪問支援計画の同意を得るようにしている。	児童発達管理責任者だけでなく、担当者等も説明できるように情報共有し内容をしっかり把握していきます。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	8	0	訪問支援の報告の際に、ご家族等と相談できる場を作り、必要な助言・支援ができるようにし、その場で回答できない時は、事業所に持ち帰り後日伝えるようにしている。	引き続き、ご家族と相談できる場を作り、必要な助言や支援を行います。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	2		ミニ運動会を通して家族同士が交流できる企画しているが、活動自体に関しては多くはないため弱い面があります。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	家庭の状況に合わせて、電話相談や面談等で迅速に対応できるよう工夫している。	引き続き、子どもや保護者が相談や申し入れをしやすい環境を整備し、申し出があった際には迅速かつ適切に対応していきます。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	訪問に関して発信はしていないが、放課後等デイサービスの活動についてホームページでの発信を行っている。	公式ラインだけでなく、ホームページやSNS等を活用して活動概要や連絡体制等の情報を発信していきます。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報の取り扱いには十分留意して支援を行っている。	引き続き、個人情報の取り扱いに十分に留意して今後も支援を行います。
訪問先施設への説明等	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	絵カードを使う等をして意思の疎通を行い配慮を行っている。	意思の疎通や情報伝達に配慮が必要なご家族がまだいらっしゃらないのですが、今後のために職員間でどのような配慮ができるのかを検討し支援していきます。
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	8	0	定期的に訪問先の先生等とお話する時間を設け、相談を受けた際には適切に対応を行っている。	訪問先の先生と情報共有する時間は設けているため、先生が相談しやすい環境・時間を引き続き整備していきます。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	8	0	訪問実施後、定期的にカンファレンスを行っている。	引き続き、カンファレンスを行う機会を増やし、訪問先との情報共有を密に行います。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	8	0	訪問支援実施後、必ずご家族等へ支援内容の共有を行っている。	引き続き、訪問支援実施後は必ずご家族等へ支援内容の共有を行うと共に、専門用語ではなく分かりやすい説明の仕方を心がけています。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報の取り扱いには十分留意して支援を行っている。	引き続き、個人情報の取り扱いに十分に留意して支援を行います。
非常時等の対	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	8	0	説明や助言が一方通行にならないように、訪問先施設から課題を確認しやすい様な雰囲気作りを心がけている。	訪問先施設と信頼関係が築けるように適切な助言を行い、説明や助言が一方通行にならないように配慮していきます。
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	マニュアル作成しており事務所に保管をしている。	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	こどもプラスホールディングスが行っている安全管理に必要な研修に定期に参加している。	引き続き研修に参加し、安全管理を徹底して支援を行います。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	些細なことでもヒヤリハットとして、つど全体で共有して再発防止や改善に取り組んでいる。	日々の終礼での情報共有や気になることの確認と合わせて、当日不在の職員にも情報共有できるように、毎日記録を残して対応しています。

応	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	情報共有や認識すり合わせミーティングなどには参加している。	研修に参加しているが、職員全員が研修等に参加できる体制作り、情報共有や認識のすり合わせミーティング等を定期的に行っています。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	身体拘束についての説明を十分に行い、理解してもらった上で支援計画にも記載している。	説明の仕方に十分に配慮して説明を行い、理解してもらった上で支援計画に記載を行います。